

---

# 雨

寿々

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨

### 【著者名】

寿々

### 【データ】

N0736B

### 【あらすじ】

やたらの中のブローカーファンフィクション。剣ちやんと見る雨が、一番綺麗！

冷たい。

顔に雨が落ちてくる。

落ちた雨は、頬を通り、首筋におひ、服に染み込むモノもあればそのまま地面に落ちるものもある。

冷たい。

79 地区、草鹿。

争いの絶えない、治安の悪い、あたしの故郷。  
小さなあたしには、名前すらなく、ただ草むらに転がつて死ぬのを待つだけだった。

いつもいつも見るのは、真っ赤な血の雨。  
透明な、澄んだ色の雨を見たことがなかつた。

そこに現れたのが、これまた名前の無い剣士。  
あなたの持つていた剣は赤かつた。  
もともと赤いんじやなくて、血の色が染み込んで赤かつた。  
でも、澄んでいた。

地獄のそこから這い上がってきた貴方の剣は、澄んでいた。  
綺麗、だった。

今もその輝きを放つてる。

素敵だよ。

「剣ちやん。雨だよー！」

「あ？」

「雨だよ」

「…………濡れるだ

あたしは弾んだ声で答える。

「いいの！あたし、風邪ひかないたちだからー」  
「ばしゃ、ばしゃ。

水溜りの水を蹴飛ばす。

澄んだ水が泥水と化す。

「・・・・・」

剣ちゃんと出会って、少しの間、流魂街に居た。

たまに雨が降つた。だいたいが、血の雨だつたけれど。

一回だけ、本物の雨が、あたしの上に落ちてきた。  
剣ちゃんの背中にしがみ付いていたときに  
冷たい！と声を上げたのを、今でも、鮮明に覚えている。  
やつぱり、素敵だったよ。

「やむるー。風邪ひこちやつよ」

「あーつらんランだあー！」

十番隊副隊長、松本乱菊が、片手に饅頭を持つて現れた。

「ランラン何それ？お饅頭？」

「そーよ。あんたも食べるでしょ？皆のぶん持つてきたよ」「出でくるときひつついに怒られなかつた？」

「だいじょーぶ。慣れっこだからっ！」

乱菊は、あたしにピースしてみせた。

そして、あたしにお饅頭を渡してくれた。

「冷めないうちに食べたほうがいいよ。そのほうがおいしいから

「うん！ありがとーー！」

「こんど金平糖も買ってあげるね

「ほんとー？やつたー！やつたー！」

あたしは飛び跳ねた。

ばしゃ、ばしゃ、ばしゃ

ぱた、ぱた、ぱた……

「窓上がつたよ」

「え～。つまんないのー。」

乱菊がいじけをむぐ。

「やけり、あんた幽好きなの?」

「?、大好き!綺麗じゃんー。」

乱菊が笑つた。

「わつか

「そーだよーでもね

「?」

あたしは自信たっぷりと言つた。

「劍ひやんと見る幽が、いつかまた綺麗なのー。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0736b/>

---

雨

2010年10月28日04時14分発行